

# 福島県 中学校長会 広報

・会長「就任の挨拶」……………	1
・令和5年度第73回福島県中学校長会総会…	2
・小・中学校合同開会式に参加して……………	2
・組織及び役員一覧……………	2
・学校教育の今日的課題 「学校における働き方改革」をめぐる昨今の動向…	3
・令和5年度中学校長会の活動と運営…	4～6
・第74回全日本中学校長会総会報告……………	6
・支会情報と特色ある経営 (福島・東西しらかわ・両沼・相双)…	7～10
・新会員紹介 新会員の声……………	11
・随想「一つの後悔と教職員による校長評価」…	12



## 就任の挨拶

福島県中学校長会会長 福地 裕之  
(福島市立福島第四中学校)

令和5年度福島県中学校長会会長を拝命いたしました福島市立福島第四中学校の福地裕之です。どうぞよろしくお願いたします。

はじめに、本年3月末をもってご勇退されました渡部光毅前会長をはじめ、校長先生方のご功績に敬意を表しますとともに、長年にわたるご指導に対しまして、心より感謝申し上げます。

さて、4月下旬、関東方面に修学旅行に行ってきました。1日目の夜、子どもたちと一緒にライオンキングを鑑賞してきました。印象に残ったのは、擬人化されたキャラクターたちの苦悩や成長の描写でした。呪術師ラフィキの言葉「過去は病むものだが、そこから逃げ出すこともできる。しかし、学ぶこともできる。」主人公シンバはこの言葉を聞き、自分のやるべきことを考え、立ち上がり、行動します。私たちの人生、全てがうまくいくことなどありません。しかし、まわりには自分を信頼してくれる人もいれば、助けてくれる人もいます。自分がやるべきことを考え、精一杯やること自体が大事なのではないでしょうか。

私の校長としてのモットーは、「あ た まを大切に」(「あ」: 明るく、「た」: 楽しく、「ま」: 前向きに)です。あたまを良くしなさいと言っているわけではありません。事あるごとに子どもたち、先生方、保護者に話をしています。人は幸せなことにも出会うでしょうし、困難なことにも出会います。その時に逃げ出すのか、前向きに挑戦し、学んでいくのか、まさに人生です。

世の中は、社会情勢の変化やグローバル化の進展、さらには人工知能(AI)の進化など、絶え間ない技術革新のなかにあります。一人一人が持続可能な社会の担い手となるためには、人間尊重の精神を基盤としながら、困難に直面してもたくましく臨機応

変に行動できる「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」の育成を目指して、学校経営の充実に努めなくてはなりません。「学校は、復興・創生のシンボルであり、復興・創生の活力源である」こと、そして、「学校は、命と健康が輝く場所である」ことをもう一度肝に銘じ、学校経営の最高責任者としてのリーダーシップを発揮しながら、地域の特質を踏まえた活力に満ちた学校経営に努め、県民の負託に応えていきたいと考えています。

福島県中学校長会の活動方針ですが、

- 1 組織と機能を充実し、本会の目的である「中学校教育の振興を図り、本県教育の発展に寄与すること」の達成に努める。
- 2 校長の学校経営力の向上を図るとともに、十分な情報交換を通して、様々な教育課題の解決に努める。
- 3 各校種及び教育委員会並びに関係諸機関との連携を密にし、諸課題への適切な対応に努める。

をもとに各専門部会を中心に年間の活動計画にそって事業を推進していきます。

今年度は、第73回東北地区中学校長会研究協議会・福島大会が会津若松市を会場として、現地参加とWeb参加のハイブリッド型による開催となりました。本大会は本県中学校教育の充実・発展に寄与する重要な協議会であり、会の準備や運営を担当された北会津支会をはじめ、会津地区の各支会には心より感謝申し上げます。

この「福島県中学校長会広報」ですが、年2回の発行となります。会員の皆様に興味をもって読んでいただける広報誌でありたいと思い、内容を工夫していきます。

終わりになりますが、福島を共に創り、つなぐ、福島ならではの教育の充実に向けて、会員の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます、就任のあいさつといたします。

# 令和5年度 第73回福島県中学校長会総会

令和5年度第73回福島県中学校長会総会は、4月19日(水)、パルセイイざかを会場に開催されました。

総会では、早川良一福島県中学校長会会長代行のあいさつの後、議事に入り、令和4年度会務・事業の承認及び決算報告が上程どおり承認されました。続く令和5年度の役員選出では、会長、副会長、監事の8名が満場一致で決定され、福地裕之氏（福島市立福島第四中学校）が新会長に選出されました。

新役員を代表して、新会長から就任のあいさつがありました。その後、新会長より、事務局長、各専門部会長、庶務、会計の委嘱が行われ、新体制がスタートしました。続いて、令和5年度の事業計画及び予算案が審議され、原案どおり承認されました。

総会后、4年ぶりに小・中合同開会式が開催されました。小・中学校を代表して福地裕之中学校長会長のあいさつがありました。学校経営の最高責任者である校長がリーダーシップを発揮し、すべての子どもたちの可能性を引き出し、新たな時代を切り拓く子どもたちを育てていくこと、どのような状況下でも学びを保障し、個別最適化された学びや創造を育む学校教育の実現など、予測不可能な社会においても、校長がリーダーシップを発揮し、対応していかなければならないと述べられました。さらには、本県の目指す、「第7次福島県総合教育計画」の柱である「学びの変革」の推進に向けて、活力ある学校づくりを力強く歩んでいきたいと述べられました。続いて来賓を代表して、福島県市町村教育委員会連絡協議会会長代理渡辺昇氏と元福島県中学校長会会長峯島和彦氏よりご祝辞をいただきました。最後に、前県小学校長会会長横山貴英氏が退会役員を代表してあいさつされました。閉式後、福島県教育委員会教育長大沼博文氏より「学びの変革推進プラン」の推進に向けて講話をいただきました。



## 小・中学校合同開会式に参加して

福島市立信陵中学校 青柳 茂宏

令和5年度の小・中学校長会の合同開会式が行われ、4年ぶりに参集しての開催となりました。その中で、各役員やご来賓の方々を代表してご挨拶並びにご祝辞があり、一堂に会しての開催を喜ぶ声が多く上がりました。

引き続き福島県教育委員会教育長大沼博文氏の講話があり、「学びの変革推進プラン」の推進状況を中心に話をされました。「変革」支える基盤となる教師の研修環境整備について触れられた際の「学ぶ教師だけが教えることができる」という言葉が印象的でした。改めて学校が果たす責任の重さを実感した次第でした。

福島市立蓬萊中学校 佐久間 徹

4月19日(水)にパルセ飯坂において、県内各支会長・理事、総会代議員が一堂に会して、県小・中学校長会合同開会式が4年ぶりに開催されました。式中では、福島県教育委員会教育長大沼博文氏のご講話もいただき、福島県小・中学校長会が本県教育の一層の充実に向けて、一丸となって取り組む決意を新たにしました。また、終了後は各校長先生方が久しぶりの再開を喜ぶ姿が随所で見られ、これも大変喜ばしいことでありました。

## 令和5年度 組織及び役員一覧

※ 理事が2名いる支会（福島・郡山・いわき）の支会長：◎印  
※ 常任理事：○印

役職名	氏名	勤務校
会長	福地裕之	福島四
副会長	熊澤正人	桃
	長谷川浩文	若松三
	玉澤淳	植田二
	早崎保夫	郡山二
監事	高山辰勝	明健
	室井良生	館岩
	武内雅之	富岡
理事	◎熊谷幸司	大鳥
	福地裕之	福島四
	伊達正人	桃
	安達幸栄	安達
	◎早崎保夫	郡山二
	小山健幸	郡山五
	瀬藤彰	須賀川二
	遠平光明	浅川
	渡辺和也	三春
	◎高田健一	白河中央
	長谷川浩文	若松三
	◎板橋和典	喜多方一
	坂口伸高	高田
	我妻雄比古	下郷
◎反畑増生	向陽	
事務局	早川良一	檜葉
	◎玉澤淳	植田二
	渡邊貴彦	平

### 【事務局】

事務局	局長	板橋竜男	福島一
事務局	行財政部	渡部正晴	吾妻
	研究部	湯田公夫	平野
	進路指導部	阿部洋己	松陵
	生徒指導部	鈴木豊信	夫
事務局	広報部	井上明浩	ふくしま支援
	庶務	菅野浩智	福島二
	会計	神尾孝弘	山木屋

## 学校教育の今日的課題

—「学校における働き方改革」  
をめぐる昨今の動向—福島県中学校長会副会長 玉澤 淳  
(いわき市立植田中学校)

先行き不透明で予測困難な時代が到来しています。Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性)の頭文字を取り「VUCA」の時代とも言われるそうです。

社会の劇的な変化に伴い、現在、我が国の学校教育はさまざまな面で転換期にあります。特に、教員の長時間労働や各地の学校における教員不足の問題が深刻化する中、教職の魅力向上に向け、学校における働き方改革は重要な節目を迎えようとしています。

4月下旬、昨年度実施した国の教員勤務実態調査の結果速報が公表されました。この速報によれば、通常期である10・11月の1日当たりの在校時間は平成28年度調査と比べ、中学校教諭で約30分短くなったものの、長期休業を含めた1月当たりの推計時間外在校時間は、中学校教諭で58時間とのことです。また、通常期に1週間の総在校時間が50時間以上となった中学校教諭の割合は77.1%に上り、単純にこれを1か月続けると仮定すれば、時間外勤務の上限指針(月45時間)を上回ることになり、依然として過酷な長時間勤務の実態が浮き彫りとなりました。

一方、この速報を踏まえた動きも報じられています。5月23日の朝刊各紙には、次のような見出しの記事が一斉に掲載されました。

## 「教員処遇 改善へ議論

～残業代・働き方 中教審に諮問～(朝日)

記事によれば、永岡文部科学大臣が中央教育審議会に対し、質の高い教師を確保するため、教員の処遇改善策を検討するよう諮問したとのこと。ご記憶の方も多いことと思います。

このことに関し、マスコミ報道では「教員の処遇改善策」のみがクローズアップされました。しかし、実際の諮問文を精読すると、今回の諮問は

「教員の処遇改善策」だけに重点を置くものではないことが分かります。「令和の日本型学校教育」の実現を期すには、教職の魅力向上させ、質の高い教員を確保することが不可欠であり、そのための環境整備に関する総合的な方策について諮問されたものです。

諮問理由としては、昨今の深刻な教師不足等の危機的な状況を背景に、「質の高い教師の確保」や「教職の魅力向上」という点が強調されています。また、諮問内容のポイントとしては、「教師の処遇改善の在り方」のほか、「教師の勤務制度を含めた学校における働き方改革の在り方」及び「学校の指導・運営体制の充実の在り方」の3点に集約されます。今後の中教審における給特法に関わる抜本的な議論も含めた審議の行方については、この国の行く末に関わる重要な内容であり、注視していかなければならないと考えています。

また、「部活動の地域移行」についても、今年度から「3年間の改革推進期間」がスタートしています。4月14日の読売新聞は、同新聞社が47都道府県及び20政令市の教育委員会を対象として実施した地域移行の進捗状況や課題等についての独自調査の結果を報じています。近隣の新潟県や茨城県などは、早くから実態把握に着手し、市町村への支援に1億円以上を計上したことが記されています。自治体ごとの取組みには大きな差が認められるようです。教員の献身的な姿勢によって成立してきた部活動を地域に移行するのは並大抵のことではありません。しかし、我々中学校長は、所属する自治体が「3年間の改革推進機関について、どのようなビジョンを描いているのか」をしっかり確認しておかなければならないと思います。

課題山積の中、解決策を求めた暗中模索が続いています。これらの取組みが、将来の学校教育の充実に結びつくことを願ってやみません。

## 令和5年度 「県中学校長会の活動と運営」

福島県中学校長会事務局長 板橋 竜男  
(福島市立福島第一中学校)

先日、第2回の県中学校長会理事会が福島市で行われました。その中で、各支会の情報交換の時間があり、相馬支会の反畑校長先生が「この間の中体連、海辺のグラウンドでサッカーの大会を行った際に、全部で10チームが参加していたけど、駐車場にはバスが2台だけしか停まっていなかった。防災意識も低くなったのかなあ」と話されていました。

もし地震になり津波が来たら、バスですぐに避難しなくてはならないため、海辺での試合は常にバスが待機しなければならないルールでした。

しかし、それが効率化や費用対効果の面からか、いつの間にか、バス待機がなくなってきたとのことでした。

震災から12年が経過し、今の小学生からは、震災後に生まれた世代になります。あの時、学校が再開したこと、そして通常の教育活動ができたこと、当時はいわゆる当たり前といわれていることに感動し、感謝する姿が見受けられました。だからこそ、「学校は、復興のシンボルであり、復興の活力源である」が一つのスローガンとして校長会でも取り上げられています。感染症等で教育活動が停滞した時にも同じようなことが言われてきました。

令和5年度の県中学校長会の総会が令和5年4月19日に行われ、第4号議案（令和5年度福島県中学校長会事業計画に関する件）が可決されました。その中の「基本的な考え方」に、本県の教育を取り巻く環境については、感染症対策など様々な課題とともに、東日本大震災及び原子力発電所事故により、いまだに県内外へ5000人弱の子どもが避難していること、そして仮設校舎等で授業を行っている中学校が2校あることの現状が示されています。

そして、これらの課題を踏まえ、ふるさと福島の復興の担い手である子供たちに対して、人間尊重の精神を基盤としながら、困難に直面してもた

くましく臨機応変に行動できる「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を子供たちに育むため、私たち校長は学校の最高責任者としてリーダーシップを発揮しながら、地域の特質を踏まえた活力に満ちた学校経営に努めなくてはなりません。

なお、この事業計画では

- (1) 本会の組織と機能を充実し、活動の活性化を図る。
- (2) 東日本大震災及び原子力災害による被災の現状を的確に踏まえ、将来の復興を担う人材育成に向けて地域の特質を踏まえた特色ある学校づくりに努める。
- (3) 学習指導要領の趣旨を踏まえた「社会に開かれた教育課程」の実現に努める。
- (4) 教育諸条件の整備・充実と教職員の処遇改善を期する。

以上4つの活動の重点が記載されており、この重点と各部会の活動目標をもとに今年度の福島県中学校長会の運営を行ってまいります。

最後に、福島県の中学校長会は東北6県の中で会員数で一番規模の大きな会です。（令和5年度青森県150人、秋田県105人、岩手県145人、山形県94人、宮城県193人、福島県208人）福島県は、面積でも岩手について大きく、浜、中、会津と、それぞれの支会には地域性があります。基本はそれぞれの支会であり、支会の充実が福島県中学校長会全体の充実につながっていきます。

その中で、地域や生徒数、それぞれの状況も大きく違う中学校が、自分たちの学校だけを考えるのではなく、全体を見据え、その考えた結果をお互いに還元しながら、自分たちの学校経営に生かしていくこと…それが県中学校長会として大切なことです。

すべての学校の幸せのために…いわゆるWell-beingの考えで、「他人事」も「自分事」として捉え、今年度も活動してまいります。

## 専門部会活動の概要

### ● 行財政部会 ●

県小・中学校長会の活動方針を踏まえ、教育行政上の課題を解決するために、各関係機関等との連携を密にしながら組織的・継続的な対策活動を推進します。東日本大震災から12年が経過しましたが復興は道半ばであり、新型コロナウイルス感染症対策も継続しており、学校の課題は山積しています。併せて、教員の未配置や特別支援教育の拡大など、対応すべき点が数多くあります。今年も行財政に関する調査Ⅰ、Ⅱ（今年からⅢ→Ⅱと名称変更）、特別調査を継続して実施し、課題解決に向けて要望活動を実施していきます。

#### 1 活動のポイント

- 多様な教育活動に対応するための教育条件の整備・充実
- 教職員の待遇改善と福利厚生の上向
- 当面する重要課題の調査研究と課題解決

#### 2 各校長先生へ依頼

- (1) 令和6年度「教職員人事の反省」
- (2) 調査Ⅰ：教職員配置等に関する調査
- (3) 調査Ⅱ：教育施策の実施状況に関する調査
- (4) 特別調査：大震災・原子力災害や感染症の影響に関する調査

#### 3 関係機関への要望

福地裕之県中学校会長、佐藤浩昭県小学校長会長を中心に、校長会として9月に要望活動を行います。福島県人事委員会、福島県議会議員各会派等へ、学校からの要望を届けていく予定になっています。

#### 4 県教育庁との教育懇談会

福島県教育庁関係者との懇談会を8月18日(金)に予定しています。調査結果をもとに行政へ働きかけ、少しでも学校の課題が解決するように活動をしていきます。

(行財政部会長 渡部 正晴)

### ● 研究部会 ●

新型コロナウイルス感染症の位置付けが、5類感染症に変更になったとは言え、まだまだ課題山積の中、校長自らがリーダーシップを発揮し、諸問題に当たられていることに敬意を表します。

さて、今年度の研究にあたっては次の点を確認の上、各支会での研究推進をお願いします。

#### 1 共通理解に基づく共同研究の推進

今年度は、3年継続研究の2年度となります。「2022-2024年度 研究の手引き」に基づき8小主題について各支会毎に共同研究を推進します。その際、学校経営における新型コロナウイルス感染症対策の視点や、校長としての具体的な対応等も踏まえた研究実践をまとめることとします。

#### 2 研究集録の編集、刊行

今年度の県大会は東北地区中学校長会研究協議会福島大会を兼ね、会津若松市で開催されます。各支会で練り上げた研究の成果と課題を盛

り込んだ内容は、研究集録として年度末に刊行します。

#### 3 全日中、東北地区中と連携した研究の深化

今年度の東北地区中学校長会研究協議会福島大会（会津若松市）はハイブリッド開催、全日本中学校長会研究協議会大分大会は参集型での開催が予定されています。刊行される大会誌等を通じて他都道府県の研究推進に係る情報等を収集し、各支会で活用願います。

#### 4 原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の記録の累積と発信

震災後13年目のステージを迎える今年度も、研究集録の中に「ふくしまの今」～双葉支会の現状～を掲載し記録の累積を行うとともに、本県のかかえる課題等を全会員で共有します。また、福島県ならではの放射線教育の現状についても引き続き掲載し、発信します。

(研究部会長 湯田 公夫)

### ● 進路指導部会 ●

夏休みの各高等学校の体験入学等においての体験等が、最終的な進路先の選択をする際の動機づけとなる場合も多いと思われます。高等学校の選択については、将来の自分のキャリア形成に向けての通過点として高等学校での学びを捉えて、それに最も適しているかを大切にしたいと考えております。体験入学等では、楽しそうだから、やさしい声を掛けてもらえたから等といった、表面的な事だけでなく、教育課程や高校卒業後の進路に向けての指導体制等、高等学校の本質に少しでも触れて感じて欲しいと願っております。

なお、高等学校の改革が進み、以前とは大きく変わっているところもあります。今の各高等学校の実態を、指導する中学校の教員も理解を深め、進路指導を進めていただきたいと思います。

今年度の進路指導部会の活動方針は、以下のようになっていますので、ご確認ください。

#### 1 「社会を生き抜く力」を育成するキャリア教育の視点にたった進路指導の積極的な推進

- (1) 進路指導体制の改善・充実
- (2) 適正な進路指導推進のための資料収集、整備活用の工夫

#### 2 高等学校入学者選抜方法等の改善に向けた高等学校や関係機関との連携

- (1) 高等学校との連携
- (2) 高等学校入学者選抜方法の改善、提言活動の推進

#### 3 適正な進路指導充実のための諸調査の実施と資料提供

- (1) 進路指導に関する諸問題の把握と資料提供
- (2) 学級活動の時間の充実のための副読本編集
- (3) 就職指導、専修学校・各種学校等の選択指導のための指導助言活動の推進

(進路指導部会長 阿部 洋己)

## ● 生徒指導部会 ●

本県中学校長会として、生徒指導の充実を図るための基盤づくりを強化するとともに共通理解に立ち、自己指導能力や規範意識を高める指導に努めます。また、生徒による安心して学校生活を送れるような風土づくりを支援します。

東日本大震災及び原子力発電所事故、コロナに起因する生徒指導上の課題、発達障がいのある生徒への対応やインターネット利用の仕方等、今日的課題に対応しながら、生徒の心の問題や安全・安心に配慮した対策を講じます。

### 1 自己指導能力の育成と規範意識の向上

- ・自己決定の場や自己存在感を与える教育活動の充実と共感的な人間関係の形成
- ・共通理解・実践に基づく一貫性ある学習・生活習慣づくりの推進と協同体制による指導

### 2 震災、原発事故、コロナに起因する課題と当面する諸課題の把握、その解決や未然防止

- ・不登校、いじめ、反社会的行動及び虐待の実態把握と早期解決を目指した指導体制の確立
- ・SCやSSW等の専門スタッフのコーディネートを活用した「チーム学校」としての取組
- ・インターネット利用状況等の実態把握と情報モラル教育の一層の充実
- ・学習用タブレット利用改善への提言や実践紹介

### 3 各校種、家庭、地域、関係機関や関係団体との連携強化

- ・他校種への理解の深化と効果的な情報の共有
- ・生徒指導主事協議会や学警連定例会等にお

る研修の充実

- ### 4 各校のニーズに基づく生徒手帳の編集、刊行
- 特に、生徒指導上の諸問題に関する調査では、校則の見直しや性に関わる課題、ヤングケアラー等、今日的な課題に対する調査もを行い、調査を通して見えてきたことから校長会としての見解を発信していきたいと思ひます。

(生徒指導部会長 鈴木 豊)

## ● 広報部会 ●

広報部会の活動は、年2回(7月・3月)広報誌を発行するとともに、ホームページの維持・管理を中心に行ひます。広報誌については、本会及び関係団体等の活動状況や会員の皆様に役立つ情報を提供するなど、皆様に興味を持って読んでいただけるような紙面づくりを工夫して行ひます。

### 1 広報紙の発行とホームページの維持・管理を行ひ、広報活動の充実を図ります。

- (1) 本会の組織・運営、事業内容、活動状況の報告
- (2) 本会及び関係団体等の活動や動向についての情報提供
- (3) 各支会の活動及び本会活動への会員の意見や感想の紹介
- (4) 各専門部会の活動内容及び情報提供

### 2 関係機関・団体等との連携を深め、情報を提供します。

- (1) 関係機関からの情報把握と会員への早期周知
- (2) 教育懇談会及び要望活動の報告

(広報部会長 井上 明浩)

# 第74回 全日本中学校長会総会報告

第74回全日本中学校長会(以降、全日中)総会は、5月25日(木)、26日(金)の2日間にわたり、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。福島県からは、次の6名が参加しました。

- 役員(全日中副会長)として
  - ・ 福地 裕之 会長(福島四中)
- 代議員として
  - ・ 熊澤 正人 副会長(桃陵中)
  - ・ 早崎 保夫 副会長(郡山二中)
  - ・ 玉澤 淳 副会長(植田中)
  - ・ 長谷川浩文 副会長(若松三中)
- オブザーバーとして
  - ・ 菅野 浩智 庶務(福島三中)

25日(木)には、中学校長会総会が行われ、会長挨拶、文部科学大臣祝辞に続き、令和4年度会務及び決算報告、令和5年度活動方針及び予算などについて慎重に審議され、決議されました。役員改選も行われ、新会長に、齊藤 正富氏(東京都文京区立音羽中学校長)が選出されました。東北地区中会長を務める本県福地会長は、全日中副会長に選出されています。新役員につきましては、全日本中学校長会ホームページをご覧ください。

会長就任あいさつの中で、全日中が取り組むべきこととして、次の3点について話がありました。

- ① 「持続的かつ効果的な学びの保障」と「次期教育振興基本計画の具現に向けて」
- ② 「学び続ける教員の実現と教職の魅力の向上」
- ③ 「全日中新教育ビジョンの更なる推進」

総会の最後に、10月に開催されます第74回全日本中学校長会研究協議会大分大会の進捗状況等について、大分県の会長より報告がありました。

26日(金)には、「当面する初等中等教育の諸課題」と題して、文部科学省初等中等教育局長による講演、また、初等中等局、スポーツ庁、高等教育局より、「少人数学級の推進」、「学校における働き方改革」、「生徒指導上の諸課題への対応」、「部活動の地域移行」など、現在、学校における様々な諸課題に係る行政説明がありました。今後の活動に向けて、多くの示唆をいただくことができました。



# 支会情報と特色ある経営

福島

## 福島支会情報



福島支会長 熊谷 幸司  
(福島市立大島中学校)

福島支会は、福島市と川俣町の計24校で組織され、「会員相互の職能の向上と地区中学校の充実振興に努めること」を目的に活動しています。今年度は10名の異動があり、行政機関や他地区、他校種からおいでいただいた先生方が新風を吹き込んでくださっています。本支会の会員は、県中学校長会の事務局や各部会の部会長・幹事等を務め、さらには県中教研の事務局や各教科専門部長としての役割を担当するなど、忙しくも充実した取組となっています。

活動内容としては、中学校長会単独で行う定例会(年7回)や研究協議会を中心に、小学校長会と連携した小中学校長会協議会による研修会、県北域内の公立及び私立の高等学校長と連携した県北ブロック中高連絡協議会の開催により会の目的達成、課題解決に努めています。また、小中学校長会協議会主催の学校経営研修会(年6回)では後進の育成にも力を入れているところです。

昨今、レジリエンスの必要性が高まっていると言われています。レジリエンスを高める要素には、笑顔やアンガーマネジメント、自分一人ではないと実感できること等があるようです。普段から、「周りの人や自分自身とどう向き合うのか」ということが大切であり、同じ悩み・課題を共有できる本支会の組織の重要性を実感するところです。様々な課題等に対して「的確に」「しなやかに」対応するためにも、正しい情報を収集し、それを見極め、何が必要かを判断し、行動していくことが大切です。構成メンバーはそれぞれにこれまでの経歴や勤務を通して様々な知見があります。すべての分野においてトップレベルの判断ができる人は本当に限られているので、校長会という組織の縦と横の連携から、各校での実践のヒントを得たり、方向性を確かめたり、悩みを共有したりできる支会となれるよう今後も取り組んでいきます。

## 《学校紹介》

### 『キ・ラ・リほくしん』～ふるさと再発見～

福島市立北信中学校

本校では、令和3年度～令和4年度にかけて福島市地域学校協働本部事業の指定を受け、北信中学校区にある小学校4校と連携を図りながら「北信地域学校協働モデル事業」に取り組んできました。

北信学習センターに本部を置き、5つの小・中学校の縦のつながりと、地域の方々との横のつながりを強化し、「地域と共にある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」の実現を目標に、様々な活動を進めてきました。本事業をとおして、児童・生徒にとっては、「学力向上の基盤」「『生きる力』の育成」「社会性を育む」「中1ギャップの軽減」、学校・教職員にとっては「授業内容の充実」「地域との信頼関係」「地域への理解」、地域にとっては「地域教育力の向上」「地域コミュニティの活性化」「住民の生きがいづくり・自己実現」など、地域全体にとって大きな成果を得ることができたと思います。以下、これらの活動内容について紹介します。

- 1 小・中接続を生かした取り組み
  - ・小学校6年生と中学校1年生の授業交流会(5月、11月)
  - ・地域一斉朝のあいさつ運動(5月～3月、毎月15日)
  - ・地域一斉クリーン活動(7月29日)



- 2 地域を生かした取り組み
  - ・地域探究活動 北信地区のすがた(6月)
  - ・シトラスリボンプロジェクト(5月～6月)
  - ・ほくしん教育フォーラム(12月17日)

コロナ禍に翻弄されながらの活動でしたが、今回の取組を生かしつつ、今後も学校と地域が一体となって子どもたちの成長を促していけるような学校経営を行っていきたいと思います。

(校長 菅野 靖)

東西  
しらかわ

## 東西しらかわ支会情報



東西しらかわ支会長 高田 健一  
(白河市立白河中央中学校)

東西しらかわ支会は、白河市、西郷村、中島村、矢吹町、泉崎村、棚倉町、塙町、矢祭町、鮫川村の9市町村からなり、18校18名の会員(うち小中一貫校1名)で組織されています。昨年度末に1名が退職、3名が転出され、今年度は行政機関や他管内の小・中学校から3名、新任教員1名をお迎えし、より強いチームワークで様々な課題の解決にあたっています。また、令和6年4月には白河市立五箇中学校が白河市立白河中央中学校に統合される予定です。

## 1 研修会の実施(年5回)

5月15日(月)に第1回研修会を実施し、各専門部や中教研、中体連の取組、様々な課題の共有と解決に向けた情報交換を行いました。最終決断をする管理職として、校長間で共通理解を図っておくことは非常に有意義であり、研修会の必要性を改めて感じた研修会となりました。

今年度は年5回の研修会を計画しています。様々な課題において、解決の一筋の光が見えるような充実した研修会を実施していきます。

## 2 参集型、対面型の研修を通して

本支会では、コロナ禍においても参集型で研修会を進めてきました。参集型のメリットには、

- ① 同じ空間、同じ場所にいるので、相手の細やかな表情や感情の変化を感じ取りやすく、意思疎通がスムーズに行える。
- ② 新しい課題で情報交換をする時、解決策を出し合う必要性が理解しやすい。
- ③ 研修の前後に、校長同士でコミュニケーションも取りやすく、支会内の結束や研修会ではなかなか触れることができなかった細かい部分の相互確認もできる。

があります。今年度も、校長同士の距離感が縮められ、より深い信頼関係が築ける貴重な場としていきます。

## 《学校紹介》

## 水害を教訓にした特色ある取り組み

白河市立大信中学校

1998年8月に県南地方を集中豪雨が襲いました。この豪雨により白河市北西部に位置する大信中学校は、28日未明に裏山が崩落し4500立方メートルの土砂に校舎が飲み込まれました。土砂崩れにより、技術室、図書室、保健室、相談室、校庭体育小屋、自転車置場が全壊しました。

本校では、この水害を教訓として後世に伝え継ぐため、また、災害について全校生徒が学び、防災意識を高めるために令和2年度から8月27日を「8・27たいしん防災の日」と定め、防災・減災を題材とした学習を行っています。

## ＜学習・活動内容＞

- ① 全校生徒それぞれが住む地域ごとのグループに分かれ、調べ学習や現地取材を行っている。
- ② 当時の被害や防災・減災に向けた現在の取り組みを町内会長の方々にインタビューし、写真や図を使って新聞にまとめている。
- ③ 文化祭の展示や発表により、当時の記憶を風化させないようにしている。
- ④ 水害の教訓を後世に伝えるためのスローガンを考え発表し合っている。
- ⑤ 消防署や日本赤十字社による防災教室を実施している。
- ⑥ 徒歩通学生徒もヘルメット持参で登下校している。また、学校内では、教室移動や集会の際でもヘルメットを持参している。

これらの活動の結果、生徒からは「防災・減災を意識した生活を心がけている」という声が聞かれました。また、地域住民からは「子どもたちから逆に自分たちが学んでいる」との言葉が聞かれました。今後も普段の生活から万一の事態に備える意識を育てていきたいと思ひます。

(校長 亀田 征利)





## 両 沼

## 両沼支会の活動



両沼支会長 坂口 伸  
(会津美里町立高田中学校)

両沼支会は、県内15支会の中で2番目に広い面積を有し、構成される町村の数も県内で3番目に多く、会津坂下町、湯川村、柳津町、会津美里町、三島町、金山町、昭和村の7町村9校で構成されている支会です。もちろん町村の数だけ議会があり、教育委員会があります。情報交換や本会活動の周知、各種協議や陳情等には7倍の気を使いながら、会員一同、各町村のニーズに応えるべく一丸となつての運営に努めています。

以下、両沼支会の主な活動を紹介します。

## 1 両沼小中学校長会及び研修会(年5回)

小中連携を密にし、総会を含む年3回の定例会と年2回の研修会を計画し、教育の今日的課題や学校経営に関する情報交換等が活発に行われ、たいへん有意義な会となっています。

## 2 退職・現職校長会教育懇談会(年1回)

今年度は4年ぶりに夏の開催を予定しており、教育課題の共有や情報交換と、たくさんの諸先輩方からご意見・ご指導を頂戴できる貴重な機会として、久しぶりに再開する予定です。

## 3 東北地区中福島大会実行委員会(適時)

昨年度からは、先日開催された第73回東北地区中学校長会研究協議会福島大会(会津開催)のハイブリッド開催運営等について協議してまいりました。全会員で準備・運営に携わり、成功裏に終えることができました。

## 4 その他

中教研では令和6年度より、隣接する耶麻支会と「統合支会」としての運営が開始される予定で、先の県中教支部長会においても報告させていただいたところです。

両沼7町村のそれぞれのニーズからなる各学校の特性を活かしながらも、「両沼は1つ!」を合言葉として、これからもそれぞれの英知を結集させて9つの中学校が団結して歩んでまいりたいと考えております。

## 《学校紹介》

## 義務教育学校の開校を次年度にひかえて

## 会津美里町立本郷中学校

本校は、令和6年度4月に隣接する本郷小学校と統合し、義務教育学校として歩み出します。その進捗状況等について的一端を紹介します。

## 1 準備の進捗状況等について

教育内容に関することは、昨年度小中合同会議を2回開き、6つの部会に分かれて協議しました。その結果、本年度は小中合同行事を実施することが決まり、全校児童生徒での合同運動会や、本校行事のりんご摘果作業、陶芸教室、文化祭合唱コンクールに小学校5・6年生を加えて実施することになりました。また、小中学校間で教員の授業交流をしやすくするため、日課表の見直しを行いました。今年度は、清掃を月・水・金の3日間のみで実施し、昼休み後の時間帯で行うようにしました。

次に、学校を取り巻く環境に関しては、町教育委員会が委嘱した委員で構成する「会津美里町本郷地域教育施設等整備検討委員会」が中心となり、様々な事について検討を進めています。検討委員会は、現在まで4回開かれ、設立の理念、校歌、校章、スクールカラー、制服等について検討を行っています。

## 2 特色ある活動(小中合同運動会)の紹介

小中合同運動会は、学校行事として5/13(土)に実施しました。当日は、小学1年生か



ら中学3年生までの9学年が赤白に分かれ、個人競技の徒競走と小中学生が一緒に行う団体競技、9学年で編制したチーム対抗で行うリレーなどが行われました。小中学生が一体となって競技したり応援したりする姿や、中学生が準備に懸命に取り組む姿が印象的で、感動的な運動会となりました。この児童生徒の姿こそが、新設する義務教育学校の目指すところと実感できた行事となりました。

(校長 小関 英紀)

相 双

# 双葉支会の活動

双葉支会長 早川 良一  
(双葉郡楡葉町立楡葉中学校)



皆様には、震災及び原発事故で被害を受けた多くの学校・児童生徒に対し、継続的なご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

双葉支会は、浪江町、葛尾村、双葉町、富岡町、川内村、楡葉町、広野町の8町村からなります。今年4月、大熊町に義務教育学校学び舎ゆめの森が帰還しました。建設資材の高騰や不足により校舎の完成が遅れているものの、公共施設内には学習する子どもたちの声が響き渡り、復興への活気が一気に強まっています。また、いわき市で教育活動を続けている双葉町も、帰還に向けた学校設置検討委員会が設立され、議論が本格化しました。

今年度5名の校長をお迎えし、中学単独校5校、小中併設校1校、義務教育学校2校、県立の中高一貫校1校と、多様な形態で9名の校長が特色ある学校経営を行っています。

双葉支会の主な活動としては、

### 1 研修会の充実

中学校独自で行う年4回の研修会、小中連絡協議会研修会が年2回、相馬支会と相双高等学校長会と連携した相双地区中高連絡協議会を年1回開催して、情報交換や地区の課題解決に向けた研修を深めています。また、中学校教育研究会は、双葉郡内の学校が浜通りに戻ったことを機に、相馬支部と合併し、相双支部として再出発しました。

### 2 ふるさと創造学

自分の未来を自分で切り拓いていく力を育む探究的な学びとして、郡内の小中高生が取り組む総合的な学習の時間です。地域のひと・もの・ことを題材に、課題解決に向けて学習を進め、12月には成果を互いに伝え合う「双葉郡ふるさと創造学サミット」を開催しています。

### 3 双葉郡中高生交流会

双葉郡の中高生が交流を通じて学ぶ1日限りのサマースクールです。「ふたばの教育復興応援団」秋元康さんにプロデュースいただき、国内外で活躍される著名人と学びの場を共有します。

## 《学校紹介》

# 世界で活躍する人材育成を目指して

福島県立ふたば未来学園中学校

東日本大震災のからの教育復興のシンボルとして、たくさんの皆様から御支援をいただいて令和元年度に開校した本校は、今年で5年目を迎えます。開校して1年足らずでコロナ禍に見舞われ、当初計画していた様々な教育活動が実施できず、生徒も教員も悔しい思いをしていました。特に海外研修については、やむを得ず国内留学生に集まっていたが、生徒の英語プレゼンテーションや双葉郡バスツアーなどの代替企画で交流しました。しかし、徐々に感染対策が緩和され、令和5年3月、ついに念願の中学1・2年一般生の語学研修(東京グローバル・ゲートウェイ:TGG1泊2日)と中学3年一般生の海外研修(ニュージーランド:NZ5泊7日)を実施することができました。出発前の生徒に話を聞いてみると、期待と不安が半分半分。ところが、研修から戻ってくると、「積極的に英語が話せた」「なかなか考えを伝えられなかった」など、生徒たちは目を輝かせながら感想を述べ、みんな一回り大きく成長して帰ってきてくれました。また、一昨年中止となった文化祭も、去年は一部制限はあるものの高校と一緒に一般公開で行い、今年はフルバージョンで開催します。授業はもとより、校外研修や学校行事などの体験的・協働的な学びによって生徒たちは、本校の建学の精神である変革者として必要な、自立、協働、創造の姿勢を身に付けています。そして、令和5年4月、文部科学省からワールド・ワイド・ラーニング(WWL)拠点構築支援事業の拠点校に指定され、生徒国際会議の開催などを目指して、更なるグローバル教育に取り組んでまいります。これらの特色ある教育活動を通して生徒たちには、世界で活躍できる人材へと成長してほしいと願っています。



TGG研修の様子



NZ研修の様子

(校長 郡司 完)

## 新会員紹介

支会	氏名	校名	支会	氏名	校名	支会	氏名	校名
福島	遠藤博晃	附属	耶麻	本多康夫	塩川	双葉	横田和典	葛尾
福島特別支援	小野美花	附属特別支援	耶麻	佐久間光児	山都	双葉	新田勇雄	双葉
安達	久保寺徹	大玉	耶麻	星貴之	高郷	双葉義務教育	南郷市兵	乳合ゆめ森
安達	佐藤秀克	白沢	耶麻	園部毅	西会津	双葉義務教育	志賀拓広	川内学園
岩瀬	関場俊宏	長沼	両沼	藤井義朗	湯川	いわき	藤川治洋	久之浜
岩瀬義務教育	星彰	稲田学園	両沼	土橋康弘	昭和	いわき	荒義紀	小川
石川	大高文雄	古殿	南会津	鶴巻厚保	檜枝岐	いわき	鈴木芳美	内郷二
田村	浦山裕子	船引南	相馬	安良公広	尚英	いわき	柏倉弘人	内郷三
田村	高橋宏信	岩江	相馬	小林邦彦	磯部	いわき	吉野敦広	好間
田村	富岡泰成	小野	相馬	小林正和	石神	いわき	竹之内貞夫	三和
東西わか	角田敏文	鮫川	相馬義務教育	亀田邦弘	いたて希望の理	いわき	上遠野博	江名
北会津	石井亮一	磐梯	双葉	青田亮一	なみえ創成	いわき	鈴木信司	川部
耶麻	佐藤純一	会北						

## 新会員の声

### 信頼され、期待される学校づくりに向けて

須賀川市立長沼中学校 関場 俊宏

保健体育の教諭としてスタートした教員人生ですが、学校現場以外においても様々な経験をさせていただきました。そこで分かったことは、どのような場面においても課題や問題があるということです。そして、課題や問題が起こると、その都度、多少なりとも困難さを感じてきました。多かれ少なかれ課題や問題がない学校はありません。そのため、それを解決する校長の姿勢として5つの考え方を心がけています。

1つ目は、「適切で早い判断を心がける」です。校内巡視や生徒・教職員とのコミュニケーションを大切に常に情報を集め、シミュレーションをしておくことで、適切で早い判断につながると考えています。

2つ目は「情報を適切に伝える」です。伝えるべき情報は全教職員に確実に伝え、共通理解と共通実践によりチーム力の向上を図ります。

3つ目は「人と人との関わりを大切にします」です。教職員や保護者等の多様性を尊重し、「子どもたちのため」という共通点を大切にしながら校務を遂行します。

4つ目は「最善を尽くす」です。課題に対してはすぐに取り組み、必ず最後までやりきるという姿勢で臨みます。

最後に「できる方法を考える」です。「子どもたちの生命を守る」を前提に、できない理由を探さず、できる方法を考える組織づくりに取り組みます。校長として、以上の考え方を大切にしながら、生徒や保護者、地域から信頼され期待される学校づくりに全力で取り組む所存です。

### ピンチをチャンスに

喜多方市立山都中学校 佐久間光児

信仰の山飯豊連峰を北に頂き、豊かな自然に囲まれた山都中学校に着任して2ヶ月が過ぎました。「地域に誇りを持ち〜」で始まる教育目標の下、地域の皆様に様々な場面でご協力をいただいている学校の校長として、学区探検を兼ねての温泉や名産「そば」の実食等、地域理解に向けた体験学習にも取り組んでいます。

そうした、地域や保護者の皆様との関わり合いを通して、校長としての責任の大きさに緊張を感じつつも、素直で前向きな34名の生徒の笑顔と、いつも生徒の側でともに活動する誠実な先生方に支えられていることを実感する毎日です。

生徒数が激減し、なんとなく寂しげだった1年のスタートに、生徒と先生方に「みんなの瞳がいきいきと輝く学校」にしたいという願いと「自分らしさ・自分のよさを見つけよう」とメッセージを送りました。

どうしても、自分や周囲のマイナス面に目がいきがちで、意識しないとプラス面には気がつかないものです。それは、生徒も先生方も同じです。「少人数だからできること」「先生方全員が生徒全員に関わるからできること」をキーワードに、生徒と先生方の取組を丁寧に見取り価値づけることで、それぞれの自信を高めたいと考えています。

生徒数の減少に伴うマイナス面があることは確かです。しかし、「ピンチはチャンス」と言われるように、「少人数ならではの」を最大限に生かし、みんなの瞳が輝く学校づくりをめざすとともに、地域理解を深める体験学習を積み重ねていきます。

昭和61年に中学校の数学教員として採用されて、ありきたりではありますが、あつという間の38年間でした。この間、学校現場には中学校7校30年（うち2校は2度）勤務してきました。お陰様で、同僚・先輩・生徒・保護者そして地域の方々に恵まれ、なんとか退職を迎えられそうです。

新採用教員時代、同じ数学科の主任にH先生という、自分が正しいと思った事は歯に衣着せずバツと言う、それでいて心根の優しい頼りがいのある先生がいらっしゃいました。教育実習時に「初任者は自分から進んで研究授業をしろ」と教えられたとおり、あの時分はまだまだ素直な面があった私は、自主的に何度も指導案を作り授業を見ていただきましたが「あんなのは授業じゃない」「あの時間、生徒は何を学んだかわからない」「授業者の自己満足」と言うような厳しい感想しかいただけませんでした。

いよいよ私が転任する時の送別会の折、このH先生は私に「千里の馬は常にあれども、伯楽は常にはあらず」という言葉を知っているかと尋ねられました。H先生は、知らないという私にこれまでにないくらい真剣な目で意味を説明してくださり、「教員は常に子ども達にとって名伯楽であろうと努力を続けなければならない。自分はそうしているつもりだ。」とおっしゃいました。

私は以後この言葉を座右の銘として教職を歩んできたつもりですが、もう少し真摯にこの言葉に向き合っていたら、もう少しましな教員になれたかもしれないと、今、心から後悔しています。

校長としては今の学校が3校目になりますが、初任の校長のときから欠かさず実施してきたことがあります。それは教職員による校長評価です。自分ではそうは思ってはいませんが（それが大きな問題なのでしょうが）、若い頃からよく、特に先輩教員から「お前は態度が大きい。偉そうにしている。偉そうにしているように見える。管理職になったら十分に気をつけないといけない」と異口同音に注意を受けてきました。

校長になった時、生徒にとって名伯楽であることは当然ですが、今後は教職員にとってもそうで

なければならないと考え、自分を客観的に見つめ律する意味でも、学校自己評価の一貫として校長評価の実施を思い立ちました。評価項目は例年ほぼ同じで、昨年度は次の21項目について4段階での評価を行いました。

- 1 校長としての資質・能力がある
- 2 リーダーシップがある
- 3 学校経営の判断は適切
- 4 危機管理は適切
- 5 コロナ対応は適切
- 6 職員会議・打ち合わせでの指示内容は適切
- 7 職員会議・打ち合わせでの指示の長さは適切
- 8 教職員への指示・指導は適切
- 9 生徒指導上の対応は適切
- 10 生徒への話の内容は適切
- 11 生徒への話の長さは適切
- 12 校長は信用できる
- 13 校長は信頼できる
- 14 教職員の話に耳を傾ける
- 15 独断専行ではない
- 16 校長には相談しやすい
- 17 パワハラはない
- 18 セクハラはない
- 19 モラハラはない
- 20 えこひいきはない
- 21 改善要望

信頼性の高い評価をするため、無記名で、評価表の回収・集計も管理職や教務ではない一般職員が行い、結果のみを受け取ることとしています。学校自己評価の一貫でもあるので、評価結果については、簡単な改善策等を付して学校HP等で公表してきました。

毎年、評価結果を踏まえ、評価結果の低い項目についてはなんとか改善しようと努めてはきましたが、そのチャンスも残すところ今年度1度きりとなってしまいました。

ただ、図らずもこの校長評価を通して明確になったことがあります。それは、残念ながら先輩教員の私に対する見立ては、あながち間違っははなかったと言うことです。

残りわずかとなりましたが、精一杯職務を遂行していく所存ですので、変わらずご支援ご指導をよろしくお願いいたします。

# 随想



福島県中学校長会副会長  
**早崎 保夫**  
(郡山市立郡山第二中学校)

## 一つの後悔と教職員による校長評価

### (一財)福島県教育会館 事業ご案内

福島県教育会館の下記事業につきまして、ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 夏休みの友
  - 福島県立高校入試問題集
  - 福島県書きぞめ展
  - 教育関係者名簿
  - ◆ 大ホール・貸し会議室(教育関係者は半額)
- 福島市上浜町10-38 office@kyouikukaikan.jp TEL 024-523-0206 FAX 024-523-0208



福島県中学校長会ホームページはこちらのQRコードから